



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"に生息するスナガニ類(甲殻類, スナガニ科)の巣穴数の月変動

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所"北浜"に生息するスナガニ類(甲殻類, スナガニ科)の巣穴数の月変動. 南紀生物 2017, 59(1): 93-94

ISSUE DATE:

2017-06-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/226396>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 生息するスナガニ類（甲殻類，スナガニ科）の巣穴数の月変動

久保田 信*

Shin KUBOTA : Monthly change of number of nests of *Ocypode* (Crustacea, Ocypodidae)
on “Kitahama”-beach at the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University,
Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”には、ツノメガニ *Ocypode ceratophthalma* (PALLAS) とナンヨウスナガニ *O. sinensis* DAI *et al.*, 1985 などスナガニ類の巣穴が、毎年、暖期に見られる（久保田, 2016）。今回、直径 1 cm 以上の巣穴をつくったスナガニ類の巣穴数を毎月数え、月変化を調べたので報告する。

材料と方法

2016 年 6 月より 2017 年 1 月まで、月 1 回（冬季のみ 2 回）、スナガニ類の直径 1 cm 以上の巣穴数を、直線距離で約 400 m の京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の全体において、くまなく目視調査した。調査日は穏やかな天候で太陽光が浜全体に当たる昼間に、人が朝から不在の日を選び、船着き場の東部と西部毎に何度も往復し、巣穴をカウントした。

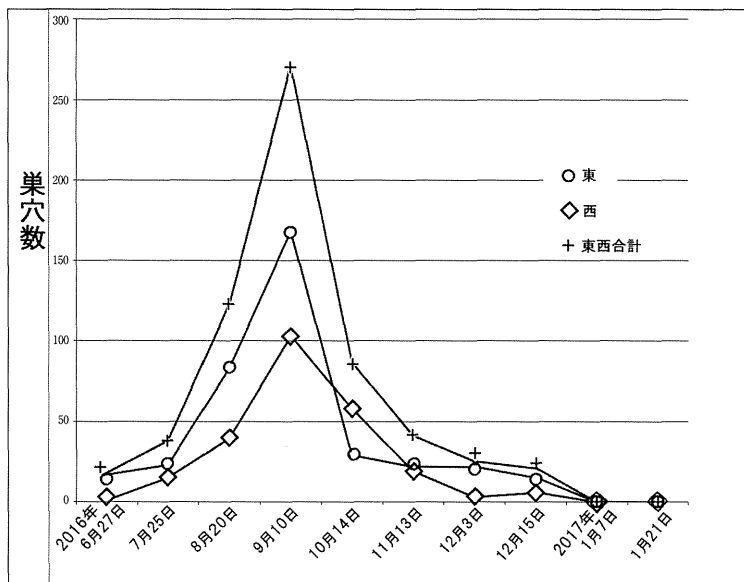


図 1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”（○：東部；◇：西部；+：東西両部合計）におけるツノメガニの巣穴（直径 1 cm 以上）の数の月変化

Fig. 1. Monthly change of number of nests (more than 1 cm in diameter) of *Ocypode* (Crustacea, Ocypodidae) on “Kitahama”-beach (○: eastern parts; ◇: western parts; +: both eastern and western parts) at the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan.

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

結 果

8ヶ月間の連続調査を実施したが、瀬戸臨海実験所“北浜”の船着き場の東部と西部では、東部の方が、10月の結果(29 vs 58)を除き、巣穴数は多かった(図1)。東西部の両者において、9月にあった巣穴が他の月よりも著しく(一桁)多くみられ、それぞれ168個と103個あり、併せて271個みられた。しかし、11月になると東西部の両方で巣穴数は減少し、それぞれ22個と19個となった。12月の初旬と中旬の調査では、11月の約半数位の巣穴数に減った。つまり冬季に向かうにつれ、巣穴数は減少した。

1月にも2回の調査を実施したが、初旬には既に巣穴はみられなかった。ただし、1回目の1月7日には、直径1 cm未満の巣穴がただ1個見られた。しかし、1月21日になると、どのような大きさの巣穴もいっさい見られなくなった。

考 察

結論として、前報(久保田, 2016)での“北浜”に生息するスナガニ類の様々な年における冬季の死亡例と併せ、当該区域ではスナガニ類は冬季に死亡するとの推定が、今回の巣穴数の変化からも示唆された。巣穴は、冬季に特有の強い北西の季節風によって吹き飛ばされた砂ですっかり埋もれてしまう。このため、寒冷により衰弱したスナガニ類は呼吸も摂餌もできなくなり、その結果巣穴の中で大半が死亡すると推察される。巣穴から出られた個体も、寒冷下では素早い動きができず、巣穴も掘れず、他の生物に食われるなどの理由で生き残れないのであろう。従って、“北浜”では成体にはなり難いといえる。

引 用 文 献

久保田 信. 2016: 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で晩秋から冬季に発見されたツノメガニの幼体(甲殻類, スナガニ科). 南紀生物, 58 (1), 35-36.